

生活科学研究所 公開講座記録 (1997年度)

開講日時 平成9年7月5日(土) 第1回(1:00~2:30) 場所 文教大学越谷校舎
第2回(2:40~4:10) 3号館3501教室
12日(土) 第3回(1:00~2:30)
第4回(2:40~4:10)

テーマ 生活不安にどう立ち向かうか——生活防衛のための方策を学ぶ——

講座の特色

今日の社会において、私たち生活者は様々な生活不安と向きあって、日常生活を送っている。マクロなレベルで言えば、日本という国自身が抱えている不安、“銀行がつぶれる”という警告に集約される金融不安。身近なところでは、超高齢化社会における老後の不安、O-157問題に象徴される食環境の不安等々。

本講座では、これらの生活不安に関連する諸問題を考察し、あわせて生活防衛の方策を学ぶ。本講座を通じて、生活不安と向きあうための知恵とヒントを身につけていただければ幸いである。

第1回 世界からみた日本の不安 中村敏夫(文教大学情報学部教授)

日本社会を国際比較すると、世界の常識とはかけ離れた生活環境に取り囲まれている多くの事実が浮き彫りになる。例えば、米国では10万ドルで購入可能な住宅がわが国では5千万円もかかるような内外価格差、日本企業が海外進出を加速する結果を生じている深刻な国内産業および雇用の空洞化、などはその数例にすぎない。講演では、自ら海外体験を生かし、具体例を沢山紹介しながら日本の不安要因を分析し、解決への展望と選択肢を提案する。

第2回 金融不安をどう考えるか 鈴木恒一(文教大学国際学部教授)

- (1) いま、なぜ金融不安が問題になっているのか?
 - イ) バブルの後遺症
 - ロ) バブルがなくても金融機関の破綻は起こりうる
 - ハ) 戦後、近年まで金融機関の倒産がなかったのはなぜか?
- (2) 金融の自由化が進むと金融機関はどうなるか?
 - イ) 金融機関の競争は激しくなる
 - ロ) 預金者も金融機関を選ぶ目が必要になる(預金者の自己責任)
 - ハ) しかし大衆預金者の保護は絶対に必要
 - ニ) 「金融システム」の破綻は、経済全体の大きな混乱を招く
- (3) 「賢い預金者」になるために

第3回 高齢者の不安

藤田雅子（文教大学人間科学部教授）

- (1)高齢者の生き方は千差万別
- (2)いつ、どのように人生の幕が下りるかは予測不可能
- (3)死に方や、死後のことまで不安がつるのが高齢者
- (4)人間的絆の継続と断絶とは大きな違い
- (5)経済的な蓄えと、社会サービス利用の知恵と
- (6)老いの20数年のステップを考える

第4回 O-157食環境をどうする 松村 學（武蔵野女子大学講師）

- (1)生活環境の問題（食物・水・空気）
- (2)O-157って何？（大腸菌とは。下痢性大腸菌の種類）
- (3)感染症とは（伝染病と食中毒の違い・新興感染症・エマジング・アイジーズ）
- (4)食中毒の予防と対策をどうする
生活環境の見直し（温熱・空気汚染、微生物・水道水の管理・排水の管理）

——以上当日配布教材より抜粋——